

これからの 仕組みづくりの5つのヒント



仕組みづくりの悩みごととは？

地域活動を進めるうえでこれから課題（悩みごと）となることについて、令和3年度に実施した「自治会アンケート」からは、大きく5つの点がクローズアップされました。**A**～**E**の5つの課題（悩みごと）の解決を図る上でのヒントになる仕組みづくりのポイントを紹介していきます。



A 地域の声聞き・活かしていく仕組み → P.30

Point

- ① 世代を超えた声・潜在的な声を把握しよう
- ② みんなで実感してみよう



B 活動の負担を軽減する仕組み → P.31

Point

- ① 柔軟性と機動性あるチームで運営していこう
- ② 活動をチェックして棚卸していこう



C やりがいを感じられる仕組み → P.32

Point

- ① 多世代で共有できる目標をつくろう
- ② 目標を前提に取り組み・活動を企画しよう



D 次の時代の担い手が参画する仕組み → P.33

Point

- ① 活動状況を見える化して発信・周知してみよう
- ② 参加側から企画・運営側へのルールをつくっていこう



E 多様な主体が共に工夫していく仕組み → P.34

Point

- ① Win-Winの関係をつくっていこう
- ② 多様な主体のアイデアの実験から実践へ

アンケート内容

令和3年度 (町内会)
平塚市自治会活動に
関するアンケート調査

〔対象〕
平塚市内自治会226地区の
自治会長（連合会長含む）、役員

〔回答〕
902票／配布数1157票（回収率78.0%）

〔内容〕
運営・活動の実態と課題、
コロナ禍での活動状況 他

詳しいアンケート
結果はこちらから





仕組みづくりヒント

A

地域の声聞き・活かしていく仕組み

暮らしの中での情報化はますます進化していくことが予想されます。私たちが暮らす地域「わがまち」については、良いことや気になること、これからへの想いについて生の声を聞き、実感し、そして共有することにより地域活動を再考していくことが大切になってくると思われます。

ヒント

A
1

世代を超えた声・潜在的な声を把握しよう

地域に住む人たちの共感を得ながら活動に取り組むためには幅広い世代の声や日頃、地域行事への参加の機会が少ない人たちの声を聞き出していくことが大切です。

- 地域住民へのアンケート方式により幅広く声を聞く
➡ 参考事例1 (P.36) 「暮らしと地域活動に関するアンケート」(横内連合自治会)
- イベント時のインタビュー方式により気軽に声を聞く
➡ 参考事例2 (P.38) 「幅広く住民の声を聞くアンケート」(LaLa湘南平塚コモンズ自治会)

ヒント

A
2

みんなで実感してみよう

幅広い声や想いを共有していくためには、実際に地域を見ていくことやこんなことが将来あり得るというリアルな情報や客観的なデータの可視化を通じて実感していくことも大切です。

- まち歩きを通じて良いところ、残念なところを探してみる
➡ 参考事例3 (P.40) 「地域散策」(城島地区地域活動推進会議)
- 見える化して取り組む課題を具体化していく
➡ 参考事例4 (P.42) 「津波防災への取り組み」(撫子原自治会)



仕組みづくりヒント

B

活動の負担を軽減する仕組み

地域活動団体の役員になるとその活動の企画・運営に時間をとられることや様々な調整など、負担感が多いと思われるがちです。特定の人たちに依存することなく、幅広い世代の人たちで参加したくなる活動を再考していくことも大切になってくると思われます。

ヒント

B₁

柔軟性と機動性あるチームで運営していこう

役員中心で運営する形から、地域の方々が協力し合う参加型へ移行していくことが大切です。世代にこだわらず、特技、経験、人脈を活かせる役割分担、サロンの運営し、経験、資格、やる気を活かしつつ、やれる範囲／できる内容で協力していけるように移行していくことも重要です。

- サポーター方式で緩やかな自主運営にしていこう

➡ 参考事例5 (P.44) 「地域による子育て『やわた子ども村』」(やわた子ども村)

ヒント

B₂

活動をチェックして、棚卸ししていこう

参加者の声、スタッフ、サポーターの声を整理し、活動や行事が地域(住民)にとって効果があったか、共感を得たかを確認し、継続するかどうかの検討や見直しを行うことが大切です。反省会でお茶を飲みながらの対話により、率直な意見を出し合い、共有することで改善点を明確にしてアイデアを出していくことも有効です。

- 対話を通じた棚卸しと新たな企画づくり

➡ 参考事例6 (P.46) 「地域活動の見直し(組織・活動・行事の棚卸し)」
(自治会・町内会、公民館、各種地域団体ほか)





仕組みづくりヒント



やりがいを感じられる仕組み

これからの地域活動においては、必ずしもこれまでの活動内容にこだわらずに、参加する側だけでなく企画運営する側の人たちも含めて、私たちが暮らす地域・まちをもっと元気に魅力的にしていこうための目標をもち、やりがいを感じられるような活動へと再考していくことも大切になってくると思われます。

ヒント



多世代で共有できる目標をつくろう

これからの目標設定にあたっては、地域の良さや課題を共有したうえで、世代や居住年数に関わらずみんなが良いと感じることや、個性的なところをより活かしていくアプローチが共感を生み出していきます。

- 地域の歴史や資源を活用しよう

➡ 参考事例7 (P.48)

「歴史からの地域づくり」(土屋公民館)



ヒント



目標を前提に取り組み・活動を企画しよう

掲げた目標に対してどのようになったら良いか、どんな効果をめざすかを共有していくことが大切です。目標に向けて、みんなで継続的に取り組むうえで、その達成度や取り組みに対する地域の人たちの声を実感できることもやりがいとなって好循環を生み出していくと思われます。

- 地域住民のニーズに応じて活動しよう

➡ 参考事例8 (P.50) 「地域住民の暮らしの足を支える仕組みづくり」

(須賀新田シニアクラブ)



仕組みづくりヒント



次の時代の担い手が参画する仕組み

30代以下の若い世代の地域情報へのアクセスは、回覧板・お知らせなどの紙媒体からHPさらにはSNSへと大きく変わっています。楽しそう・参加したいと感じる活動の様子や企画内容を様々な媒体を活用し、発信していくことがますます大切になってくると思われます。

ヒント



活動状況を見える化して発信・周知してみよう

活動の臨場感、参加者の表情をわかりやすく伝え、賛同・共感を得るためには、文字だけでなく写真、動画へと工夫していくことも大切です。

- 見たくなる動画づくりに挑戦していく

➡ 参考事例9 (P.52) 「動画で地域を元気に！」(崇善地区ちいき情報局)

ヒント



参加側から企画・運営側へのルールをつくっていこう

参加する側から企画・運営する側へつながる機会をつくるとともに、「楽しく」、「うれしく」感じられる仲間づくりの発想が大切です。

- 楽しく企画して、みんなでやってみよう

➡ 参考事例10 (P.54)

「愛着あふれる心ときめく街をめざして」

(BrilliaCity横浜磯子自治会)





仕組みづくりヒント



多様な主体が共に工夫していく仕組み

様々な地域課題に対応していくためには、その内容によって地域（住民）だけでなく、行政や学校・企業などとの協力・連携のもとで工夫や試行を重ね、地域に合った新しい活動へと整えていくこと、いわゆる「共創」が大切になってくると思われます。

ヒント



Win-Winの関係をつくっていこう

共創の時代には、地域、行政、学校・企業などの関係者がそれぞれの立場を認め合い、知恵を出し合いながら、共に行動していくことが重要です。

- 多様な共創型での新しい取り組み

➡ 参考事例11 (P.56) 「多様な主体の参画による地域・まちづくり」
 (愛知県岡崎市、龍田地区周辺住民組織、自治会、民間事業者、NPOなど)

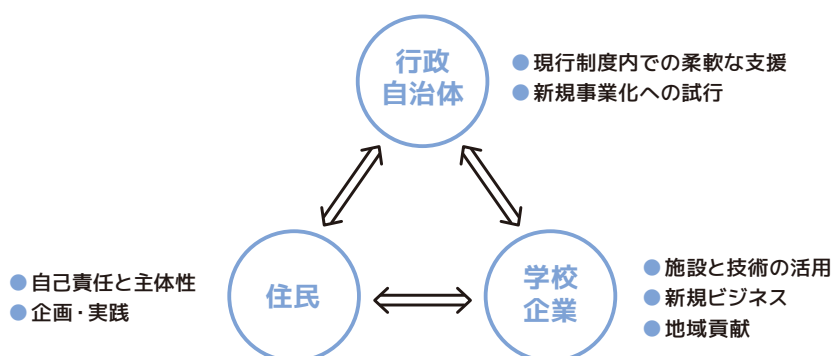
ヒント



多様な主体のアイデアの実験から実践へ

共感できる地域環境や地域資源を活かしていく個性的な取り組みにチャレンジし、実践へとつなげていくためには、産官学民の連携・協働を進めていくことが効果的です。

- 産官学民の連携で実践力アップ



➡ 参考事例12 (P.58) 「地域資源を活かし、大学、民間と連携したまちづくり」
 (湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化にむけた協議会)